



北海道公立大学法人  
**札幌医科大学**  
Sapporo Medical University

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title 論文題目	医療的ケアを必要とする子どもの在宅療養に向けた支援において NICU および小児病棟の看護師が捉える看護職連携
Author(s) 著 者	遠井, 雅世
Degree number 学位記番号	第 97 号
Degree name 学位の種別	修士 (看護学)
Issue Date 学位取得年月日	2016-03-31
Original Article 原著論文	
Doc URL	
DOI	
Resource Version	

## 修士論文の内容の要旨

保健医療学研究科 博士課程前期 看護学専攻 専門看護師コース 小児看護	学籍番号 13MN04 氏名 遠井 雅世
論文題名 (日本語) <b>医療的ケアを必要とする子どもの在宅療養に向けた支援において                  NICU および小児病棟の看護師が捉える看護職連携</b>	
論文題名 (英語) <b>Nursing cooperation from the perspective of nurses in neonatal intensive                  care units (NICU) and pediatric wards in support of home care for children                  requiring medical care</b>	
<b>1. 研究目的</b> 近年、NICU および小児病棟の看護師に加え、退院調整看護師、訪問看護師等の異なる立場の看護職が協力して、医療的ケアを必要とする子どもの在宅療養に向けた支援を行っている。しかし、これらの看護職の連携は十分に明らかにされていない。本研究は、医療的ケアを必要とする子どもの在宅療養に向けた支援においてNICU および小児病棟の看護師が捉える看護職連携を明らかにすることを目的とした。	
<b>2. 研究方法</b> 研究デザインは質的記述的研究とした。研究参加者は、NICU または小児病棟の看護師（以下、病棟看護師）5名とした。研究参加者に、医療的ケアを必要とする超重症児・準超重症児の在宅療養に向けた支援において看護職と連携した経験について半構造化面接を行った。得られたデータから逐語録を作成し、異なる立場の看護職と協力して活動する過程に関連する意味のあるまとまりを取り出しコード、内容の相違性・類似性を比較・分類し〔サブカテゴリー〕・【カテゴリー】を抽出した。本研究の実施にあたり、札幌医科大学倫理委員会の承認を得た。	
<b>3. 研究結果</b> 病棟看護師へのインタビューから、看護職連携を表す21サブカテゴリー、3カテゴリー、看護職連携に影響する状況を表す11サブカテゴリー、3カテゴリーを抽出した。病棟看護師は、看護職への働きかけを抑制する様々な状況を持ちながらも、〔退院調整看護師・保健師から得る子どもが利用可能な社会資源の情報〕や〔支援の引き継ぎに向けた新生児集中ケア認定看護師の力添え〕等の看護職がもつ専門的な知識や情報による力添えを得て、【子どもに適した在宅療養環境の準備】と【子ども・親の情報共有とニーズに合わせた支援の引き継ぎ】を行ったと捉えていた。また、病棟看護師は、看護職との情報共有や支援の引き継ぎには、カンファレンスや電話等の方法で、看護職と双方向のコミュニケーションを図ることがより良いと捉えていた。一方、病棟看護師は、〔これから関わる看護職との情報共有の重要性とプライバシー保護のジレンマ〕や退院調整看護師の情報共有の仲介による弊害という、看護職との情報共有の困難さを捉えていた。	

病棟看護師が捉えた看護職への働きかけを抑制する状況は、子どもの在宅療養環境の社会資源・情報・知識の不足、複数回にわたる子どもの療養場所の移転、看護職の役割・状況の曖昧さであった。一方、病棟看護師が捉えた看護職への働きかけを促進する状況は、看護職と面識があることや頻りに報告・連絡・相談ができる関係性であり、病棟看護師は〔看護職との相互理解・相互尊重の必要性〕があると捉えていた。

病棟看護師は【子どもの在宅療養に向けた支援の振り返りによる経験の積み重ね】があり、在宅療養開始後の子ども・親・看護職の情報を得たいと考えていた。しかし、看護職から在宅療養開始後の子ども・親・看護職の情報を得て振り返る機会は少なく、受け持ち看護師としての経験を積み重ねにくい状況があった。

#### 4. 考察

病棟看護師は、異なる立場の看護職と協力して活動することにより、病棟看護師だけではなし得ない在宅療養に向けた支援を子ども・親に提供することができる。現在、子どもの在宅療養に向けた支援を行う看護職のチームは、発展途上である。在宅療養に向けた支援を行う看護職は、チームの形成には対立や緊張が必要不可欠であることを理解し、双方向のコミュニケーションを図り、相互理解・相互尊重を深める中で、看護職のチームを発展させていくことが重要である。また、病棟看護師は、協力した看護職や看護スタッフと共に、チームで省察的なカンファレンスを行い、その経験を共有することにより、医療的ケアを必要とする子どもの在宅療養に向けた支援や看護職連携の発展につながると考える。

#### 5. キーワード：医療的ケア、超重症児、在宅療養、小児看護、連携

##### 1. Purpose

Recently, in addition to nurses from the neonatal intensive care unit (NICU) and pediatrics ward, nurses from different specialties such as outpatient coordinator nurses and home care nurses have been performing cooperative work to support home care for children requiring medical care. However, the nature of this cooperation has not yet been sufficiently clarified. The present study aimed to clarify this cooperative support arrangement from the perspective of NICU and pediatric ward nurses.

##### 2. Methods

This study has a qualitative and descriptive design that targeted five NICU and pediatrics ward nurses (hereafter referred to as floor nurses). Semi structured interviews were conducted about their experience in cooperating with other nurses in the support of home care for children requiring medical care. Verbal transcripts were constructed from these interviews, and pertinent content was decoded and condensed to compare and categorize (main categories and subcategories) the similarities and differences underlying the processes through which nurses of different specialties cooperate with each other. This research was conducted with the approval of the ethics committee of Sapporo Medical University.

##### 3. Results

On the basis of the floor nurses' verbal data, nursing cooperation was classified into three main

categories and 21 subcategories, and conditions that affect nursing cooperation were classified into three main categories and 11 subcategories. It was deduced that despite their various working restrictions, floor nurses assisted each other through the provision of specialized knowledge and information (e.g., discharge planning or public health nurses provide information on the public resources available to children or neonatal care nurses assist in the transition to home care support), and did so such that “a suitable home care environment was prepared for the children” in which “the support corresponded with the sharing of parent/child news and information.” The floor nurses also demonstrated exceptional bidirectional communication in their sharing of information between other nurses during support transitions through telephone conversations and conferences. However, floor nurses face future challenges concerning the sharing of information with other nurses (“the importance of privacy protection”) or the adverse involvement by information agencies in the task of discharge planning.

The working restrictions placed on floor nurses furthermore resulted in instances in which the home care environment was lacking in social resources, information, and knowledge; the location of childcare was changed multiple times; or the status and role of the nurses was ambiguous. Nevertheless, nurses understood the need for mutual understanding and respect, and they were encouraged to work together and to frequently contact, consult, and report to one another.

Finally, floor nurses desired greater access to parent/child/nurse information at the initiation and discontinuation of child home care that would allow them to “obtain experience by reviewing the support they provided.” However, few such review opportunities exist, making it difficult for the nurses to build experience.

#### 4. Discussion

Cooperation between floor nurses and nurses of other specialties allows for the provision of support not only to one another but also to the children and the parents of the children receiving home care. Currently, a nursing team is being developed to provide home care support for children. Differences of opinion and tension between the nurses involved in home care are unavoidable; thus, it will be important to develop this team in a way that fosters bidirectional communication and mutual understanding and respect. Importantly, as floor nurses are expected to conduct reviews together with cooperating nurses and relevant staff, this shared experience may advance the nursing cooperation and support of home care for children requiring medical care.

5. Key words: medical care, children with severe motor and intellectual disabilities and medical care dependent groups, home care, pediatric nursing, cooperation

## 修士論文審査の要旨及び担当者

報告番号	第 <b>97</b> 号	氏名	遠井 雅世
論文審査担当者	主査 今野美紀 副査 小塚直樹 副査 城丸瑞恵		
<p><b>医療的ケアを必要とする子どもの在宅療養に向けた支援において NICU および小児病棟の看護師が捉える看護職連携</b></p> <p><b>Nursing cooperation from the perspective of nurses in neonatal intensive care units (NICU) and pediatric wards in support of home care for children requiring medical care</b></p> <p>近年、NICU および小児病棟の看護師に加え、退院調整看護師、訪問看護師等の異なる立場の看護職が協力して、医療的ケアを必要とする子どもの在宅療養に向けた支援を行っている。しかし、これらの看護職の連携は十分に明らかにされていない。本研究は、医療的ケアを必要とする子どもの在宅療養に向けた支援において NICU および小児病棟の看護師が捉える看護職連携を明らかにすることを目的とした。</p> <p>研究デザインは質的記述的研究とした。研究参加者は、NICU または小児病棟の看護師（以下、病棟看護師）5 名とした。研究参加者に、医療的ケアを必要とする超重症児・準超重症児の在宅療養に向けた支援において看護職と連携した経験について半構造化面接を行った。得られたデータから逐語録を作成し、異なる立場の看護職と協力して活動する過程に関連する意味のあるまとまりを取り出しコード、内容の相違性・類似性を比較・分類し〔サブカテゴリー〕・【カテゴリー】を抽出した。本研究の実施にあたり、札幌医科大学倫理委員会の承認を得た。</p> <p>病棟看護師の語りから、看護職連携を表す 21 サブカテゴリー、3 カテゴリー、看護職連携に影響する状況を表す 11 サブカテゴリー、3 カテゴリーを抽出した。病棟看護師は、看護職への働きかけを抑制する様々な状況をもちながらも、〔退院調整看護師・保健師から得る子どもが利用可能な社会資源の情報〕や〔支援の引き継ぎに向けた新生児集中ケア認定看護師の力添え〕等の看護職がもつ専門的な知識や情報による力添えを得て、【子どもに適した在宅療養環境の準備】と【子ども・親の情報共有とニーズに合わせた支援の引き継ぎ】を行ったと捉えていた。また、病棟看護師は、看護職との情報共有や支援の引継ぎには、カンファレンスや電話等の方法で、看護職と双方向のコミュニケーションを図ることがより良いと捉えていた。</p>			

一方、病棟看護師は、〔これから関わる看護職との情報共有の重要性和プライバシー保護のジレンマ〕や退院調整看護師の情報共有の仲介による弊害という、看護職との情報共有の困難さを捉えていた。病棟看護師が捉えた看護職への働きかけを抑制する状況は、子どもの在宅療養環境の社会資源・情報・知識の不足、複数回にわたる子どもの療養場所の移転、看護職の役割・状況の曖昧さであった。一方、病棟看護師が捉えた看護職への働きかけを促進する状況は、看護職と面識があることや頻繁に連絡・相談・報告ができる関係性であり、病棟看護師は〔看護職との相互理解・相互尊重の必要性〕があると捉えていた。病棟看護師は【子どもの在宅療養に向けた支援の振り返りによる経験の積み重ね】があり、在宅療養開始後の子ども・親・看護職の情報を得たいと考えていた。

病棟看護師が捉えた看護職への働きかけを抑制する状況は、子どもの在宅療養環境の社会資源・情報・知識の不足、複数回にわたる子どもの療養場所の移転、看護職の役割・状況の曖昧さであった。一方、病棟看護師が捉えた看護職への働きかけを促進する状況は、看護職と面識があることや頻繁に連絡・相談・報告ができる関係性であり、病棟看護師は〔看護職との相互理解・相互尊重の必要性〕があると捉えていた。

病棟看護師は【子どもの在宅療養に向けた支援の振り返りによる経験の積み重ね】があり、在宅療養開始後の子ども・親・看護職の情報を得たいと考えていた。しかし、看護職から在宅療養開始後の子ども・親・看護職の情報を得て振り返る機会は少なく、受け持ち看護師としての経験を積み重ねにくい状況があった。

病棟看護師は、異なる立場の看護職と協力して活動することにより、病棟看護師だけではなし得ない在宅療養に向けた支援を子ども・親に提供することができる。現在、子どもの在宅療養に向けた支援を行う看護職のチームは、発展途上である。在宅療養に向けた支援を行う看護職は、チームの形成には対立や緊張が必要不可欠であることを理解し、双方向のコミュニケーションを図り、相互理解・相互尊重を深める中で、看護職のチームを発展させていくことが重要である。また、病棟看護師は、協力した看護職や看護スタッフと共に、チームで省察的なカンファレンスを行い、その経験を共有することにより、医療的ケアを必要とする子どもの在宅療養に向けた支援や看護職連携の発展につながると考える。

以上の研究内容について、当該大学院学生より修士論文審査委員会において報告され、同委員会では、①用語の定義を再考すること、②サブカテゴリーの検討と結果を追記すること、③考察を追記すること（a.研究テーマに関連して超重症児をケアした病棟看護師にデータ収集したからこその特徴、b.チームの発展という点より、先行文献を参考に図示すると分かりやすい）、④研究の妥当性、限界、今後の展望について、本研究のサンプル数に関連して修正・追記すること、⑤表記のゆれ等を修正すること、といった内容の指摘を受けた。その後、上記内容について修正がはかられ、同委員会では修正内容は適切であると判断された。

以上より、修正論文審査委員会として、本論文は修士（看護学）の学位論文に値すると最終的に判断した。

※報告番号につきましては、事務局が記入します。